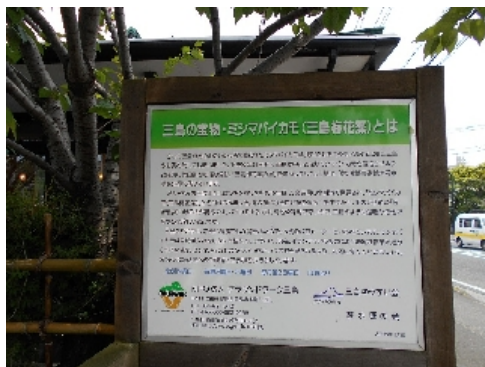


三島梅花藻の里で「ミシマバイカモ」見頃です



梅花藻の里1



梅花藻の里2

「三島梅花藻の里」は…とても小さな公園ですが「ミシマバイカモ」を育てています。湧水に揺れる可憐な花を見る事が出来ます。夏は冷たく、冬は暖かく感じる三島の湧水に触れてお楽しみ下さい(写真上左右)。

三島の宝・ミシマバイカモ(三島梅花藻)は…日当たりが良く、冷たい清流でしか育たないので、水質のパロメーターとも言われています。日常の手入れをしないと枯れてしまうので、現在…ボランティアグループの協力により地道な作業が続けられています。



湧水1



湧水2

富士山の噴火による三島溶岩流は、約30kmに渡って水を良く通す地層が出来ました。その地層の影響で、上流で降った雨や雪が、地下にしみ込み、溶岩流の中をゆっくりと移動して、三島市の湧水群や、さらに下流の柿田川で湧き出しています。写真上左右は「三島梅花藻の里」での湧水の状況です。



三島梅花藻1



三島梅花藻2

ミシマバイカモは昭和初期、市内の楽寿園の中にある、地下水が湧き出て作った小浜池で発見されました。キンポウゲ科の多年草で、梅に似た小さな花を咲かせるので、この名がつけられました。その後、市内を流れる湧水のいたる所で見ることができたミシマバイカモですが、昭和30年代からの水質悪化と水量減少のため、その数が激減してしまいました。

こちらの公園「三島梅花藻の里」では湧水を噴水状にしてミシマバイカモの育成をしています(写真上左右)。



[三島梅花藻3](#)



[三島梅花藻4](#)

市民が「ミシマバイカモ」を復活させようと1996年(平成8年)に整備したのが当公園「三島梅花藻の里」です。ミシマバイカモは日当たりの良い場所でないと上手く育たないため、当公園ではボランティアさんによって1年を通し常に整備されています。

また当公園ではミシマバイカモを間近で見られる遊歩道や水車などが設置され、散策をしながらゆっくり可憐な花を鑑賞できるようになっています(写真上左右)。初夏から初秋にかけてウメの花のような白い花を水中で付け、葉は濃緑色で分裂し水の流れに沿って1mほど伸びます。



[公園内1](#)



[公園内2](#)

公園内には、この緑地は「緑の環境デザイン賞」において、環境との共生に貢献する優れたプランとして表彰され、助成を受け実現したものと書かれた表示板が有ります(写真上左)。また木製のイス、テーブルが設置されていますので休憩も可能です(写真上右)。



[源兵衛川1](#)



[源兵衛川2](#)

「三島梅花藻の里」をさらに奥に(西側)進んでいくと(約30m)こちらの里で増やしたミシマバイカモを移植した源兵衛川を見る事ができます(写真上左右)。



[源兵衛川3](#)



[源兵衛川4](#)

源兵衛川はミシマバイカモの発見された小浜池を源流とする川です。一時期は枯れてしまいましたが1990年代から水質の浄化が進み、現在は藻が生息するほどに水質が改善しました(写真上左右)。



[源兵衛川5](#)



[カワセミ](#)

川の右岸または左岸には、遊歩道が設けられていてゆっくり散策出来ます。ここではミシマバイカモは開花前のつぼみ状態でしたが、アジサイなど多くの花の観賞が出来ました(写真上左)。また三島市の鳥とされる「カワセミ」が姿を見せる事から、カメラ愛好家が三脚を立てカワセミが飛来するのを待っている姿が見られます。写真上右がカワセミです。(この写真は鳥図鑑より引用です)



[源兵衛川6](#)



[マップ看板](#)

源兵衛川の日当たりの良い場所に移動すると…「ミシマバイカモ」…発見しました(写真上左)。写真をクリックし拡大してご覧ください！ 少しですが開花していますヨ。

遊歩道上の所々に、現在位置が解るマップ看板が設置されています(写真上右)。散策をするうえで大変参考になりました。

★「三島梅花藻の里」

- ・所在地: 三島市南本町7
- ・アクセス: 三島駅南口から徒歩20分
三島田町駅から徒歩5分
※佐野美術館近く
- ・お問合せ
三島市商工観光課
Tel: 055-983-2656

取材: 中伊豆地区担当 生きがい特派員 安藤 智章